

SHIRAKOBATO

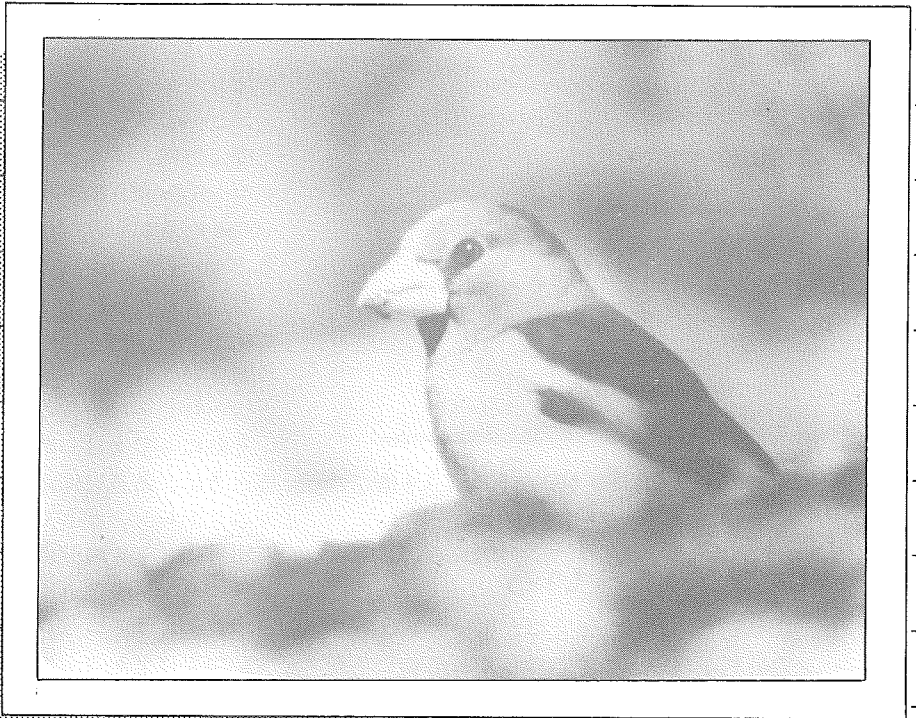
しらこぼと



1988. 2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.45

日本野鳥の会 埼玉県支部

野鳥しゃしん考

機材についてのしったかぶり

はあと・つう

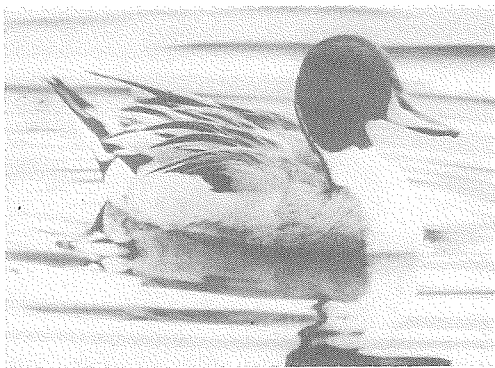
海老原美夫（浦和市）

カメラかレンズかフィルムか

ウデの話をするときりがない。だから、今回は機材の話をしてしよう。

どんなカメラが良いか、レンズは、フィルムはといろいろ言うけれど、それは理想的には、うつしたい対象にたいして最も適したフィルム、レンズ、カメラの組み合わせをそれぞれ選択するのが良いのだろうが、そうそうレンズやカメラはたくさん用意できはしない。

写真というのは、対象とフィルムとレンズとカメラ&ウデ（技術的手腕+感性）の組み合わせで決まる。これは本来どれが先ということはないのだけれども、実際問題として、プロならぬわれわれ日曜写真家は、せいぜいなんとか手の届くレンズを1本買い込んで、後生大事に使うしかない。だから最初に決まるのはレンズということになる。



オナガガモ（ニコン400mm F3.5、1.4倍
テレコンバーター、コダクローム）

レンズいろいろ

思い切って言っちゃえば、キャノンとニコンの評判が良い。いずれにしても信頼できるメーカーのものを選ぶことが必要。もちろんレンズ専門メーカーのものにも優れたものがある。

基本的には、焦点距離が長ければ長いほど遠くのを大きくうつすことができる。そ

して、F値が小さければ小さいほど明るい。ただし、焦点距離が長く、F値の小さい（明るい）レンズは重くなる。つまり、操作性に欠けてくる。値段も高くなる。

普通に野鳥を撮影するときには、焦点距離で500mm以上、F値で、明るい場所でも8以下の明るさは欲しい。

ただし、それも簡単には言えない。明るい水辺で遠くのカモなどをうつしたいときには、多少F値が大きく（暗く）ても、出来るだけ焦点距離の長いレンズが欲しいし、薄暗い林のなかで動きの早い小鳥類をねらうときは、焦点距離が短くても、F値の小さい（明るい）レンズが欲しい。ああ面倒だ。

反射式か屈折式か

望遠レンズには反射式と屈折式がある。

反射式は小さくて軽くて安い。カタログなどにレフレックスと書いてあるのがそれ。例えば500mm F8がニコンで89,000円、キャノンで82,000円、タムロンで65,000円。屈折式のニコン600mm F5.6が550,000円、キャノンの500mm F4.5が460,000円などというのに比べると安いのが分かる。

ただし、F値が大きい（暗い）、ピント合わせが難しい、バックのボケが二重線になってうるさい、などの欠点がある。世の中いろいろとばかりじゃない。

それにしてもはじめて野鳥写真にトライするとき、あるいは常にザックにいれておくセカンドレンズとしても、魅力ある存在だ。

屈折式レンズの利点欠点は反射式の裏がえし。カタログを取り寄せ、じっくりふとくと相談しようではないか。

かつてはテレコンバーター（レンズにつけてF値が大きくなるが焦点距離を伸ばす）をつけると明らかに画質が落ちたが、近ごろは優秀なテレコンバーターも出てきている。これとの組み合わせを考えるのもひとつの方法だろう。

フィルムいろいろ

フィルムは、感度が高いほうがうつしやすい。はやい速度でシャッターが切れるからだ。

フィルムの感度というのは、ISO 400とかいう数字で表わされ、数字が高いほうが感度が高い。

ところが、フィルムの基本的な性格として、ネガフィルムでもポジフィルムでも、感度が高くなればなるほど、粒状性が悪くなる。つまり画質が悪くなる。こまったものだ。

だから画質を大切に人は、ISO 64とか100とかのところで苦労している。

そして、その辺のフィルムを使うために、出来るだけ明るい（F値の小さい）レンズが必要ということになるわけ。逆に画質にこだわらなければ感度の高いフィルムをつかえるから、暗い（F値の大きい）レンズでも良い。フィルムとレンズの組み合わせで考えなければならぬということ、お分かりかな。

ネガフィルムかポジフィルムか

ネガフィルムというのは、普通みんなが写真をうつしているやつ。印画紙にプリントしてはじめて画像が見える。ポジフィルムというのは、リバーサルフィルムとかスライドフィルムなどもよばれる。フィルムを現像するとそこに画像がうつっている。だからマウント（枠）に入れると、そのままスライド映写機で映写できる。

性質のちがいはいろいろあるけれど、本格的な写真をめざす人やプロたちは、コダクロームというISO 64のポジフィルムを使うことが多い。時に応じてISO 200のエタクロームを使ったりしている。最近ではISO 100のフジクロームのファンも増えているらしい。

私も暗くてどうにもならないところでの記録写真にISO 1600のネガフィルムを使ったこともあるが、フィルムはレンズみたいに高いものではないから、いろいろ試してみて、その性能を自分で納得することができる。

写真クラブの定例会のようなところでは、スライドのほうが良い。スクリーンに大きくうつしてみんなで見ることができる。

忘れちゃいけない三脚と焦点板

レンズが大きくて重くて、焦点距離が長いからブレやすい。だから三脚は必需品になる。また荷物が増えるわけだ。もういやになったなんて言わないで、がんばれがんばれ。

三脚は基本的に上に乗っているレンズとボデーより重いものが必要と言われている。よくピントが甘いという写真も、実はピントの問題ではなく、ブレであることが多い。支点がゆれないしっかりした三脚が必要だ。

焦点板（フォーカシングスクリーン）のことも忘れてはいけない。ファインダーをのぞくと画像がうつって見える。あの部分のことだ。500 mm以上のレンズの多くの明るさでは、中央のマイクロプリズム部が暗くなってしまう。だから全面マットなどの焦点板が必要になってくる。つまり、焦点板の交換ができるカメラが望ましいということだ。



アオジ（タムロン 500 mm F8、コダクローム）

あとは鳥とウデとマナーだけ

今までの話はあくまでも「普通に」野鳥をうつすときの話で、餌場や水場の近くにカメラをセットして、赤外線スイッチで作動させたりする方法などをとるときは、この話に当てはまらない。

それはともかく、「普通に」うつすことを目指す人は、これで機材の準備は一応できた。あとは鳥、そして（しつこいけど）ウデ。おっと一番大切なもの「マナー」をお忘れなく。

幸運を祈ります。がんばってあなたの写真で『しらこぼと』の表紙をかざってください。お待ちしております。

謹賀新年



昭和63年元旦

丸山政弘
(吉田町)

佐藤方博
(所沢市)

謹賀新年

今年もよろしくおなごいします。



元旦

石川和義
(浦和市)

池田琢朗
(浦和市)

野原文江
(玉川村)

賀正

辰年元旦



今年も
よろしく
お願ひします

あけまして
おめでとう
ございます。
今年も
支部や鳥にとつて
よい年で
ありますように。



あけまして
おめでとう
ございます。



謹賀新年

1988年元旦



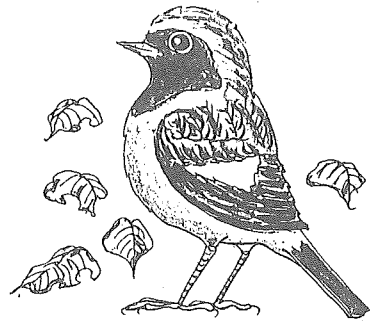
日本野鳥の会甲府支部

支部長 許山 韶

八景春

戊辰
元旦

同司



1987年秋のシギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

願意致します。次回の調査は4月29日です。

(執筆 榎本秀和)

昨年9月15日に実施された秋のシギ・チドリ類調査に際しては、20名の会員の御協力を得て表のような成果を上げることができました。

大麻生・明戸では荒川が増水して鳥の降りられる状況ではなかったですが、他の場所についてはほぼ例年なみと思われます。いずれの場所も種数・個体数とも春の調査のときより少な目ですが、前日まで良好でなかった天気が、調査当日になって急速に回復したため、カウントに入ったときには既に移動してしまったことも考えられます。

当年生れの幼鳥を加えた秋の個体数が春に比べ多いと一般的に考えられますが、今後のデータ収集によっては再考の余地もあります。また、春秋の数の差が渡りのルートの違いを暗示するとしたら、地道な調査の継続もその意義は大きいと言えるでしょう。

最後に、今回の調査に参加された皆様に御礼申し上げますとともに、今後とも御協力をお

種 類	阪東大橋 (本庄)	大麻生・明戸 (熊谷・川本)	秋ヶ瀬 (浦和)	深作沼 (大宮)
コチドリ				2
イカルチドリ	8	1		
シロチドリ	45			
ムナグロ			179	
アオアシギ	5			
クサシギ	1	1	1	8
タカブシギ			36	1
イソシギ	4	10		3
タシギ			29	3
ジギSP.			2	
計 10 種	5 種	3 種	5 種	5 種

野鳥情報

- ハジロカイツブリ ◇12月24日、渡良瀬遊水池で2羽(藤原寛治)。
アカエリカイツブリ ◇12月20日、浦和市秋ヶ瀬の荒川で1羽(福井 亘)。
カンムリカイツブリ ◇11月16日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(北川慎一)。
カワウ ◇12月15日、狭山湖で若鳥1羽(須永達人)。
アオサギ ◇11月21日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。◇11月23日、浦和市秋ヶ瀬B地区で1羽(佐藤晶人)。
コウノトリ ◇12月20日午前10時、渡良瀬遊水池で1羽(大島英太郎)。12月20日午後2時、本庄市の阪東大橋下流で(鶴 博行、小園 茂)。12月21日、渡良瀬遊水池で(複数の者)。
クロツラヘラサギ ◇12月20日午後4時、本庄市の阪東大橋下流で若鳥1羽(鶴 博行、小園 茂)。
コハクチョウ ◇12月3日、川本町の明戸堰上流で4羽(渡辺 敦)。◇12月10日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(北川慎一)。
トモエガモ ◇11月22日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(北川慎一)。
オカヨシガモ ◇11月22日、本庄市の阪東大橋下流で♂23羽(北川慎一)。
ヨシガモ ◇11月23日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(北川慎一)。
スズガモ ◇11月23日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(北川慎一)。
ミコアイサ ◇12月24日、渡良瀬遊水池で♂



クロツラヘラサギ(12月26日、本庄市阪東大橋下流、海老原美夫撮影)



オオハシシギ
(12月20日、
大宮市植田谷
本の鴨川、海
老原美夫撮影)

- 1羽♀10羽(藤原寛治)。
カワアイサ ◇11月23日、本庄市の阪東大橋下流で♀2羽(北川慎一)。◇12月24日、渡良瀬遊水池で♀3羽(藤原寛治)。
ノスリ ◇11月11日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。◇11月23日、浦和市秋ヶ瀬B地区で1羽(佐藤晶人)。
チョウゲンボウ ◇11月23日、浦和市秋ヶ瀬B地区で1羽(佐藤晶人)。◇12月8日、富士見市の柳瀬川左岸の田圃で♀1羽。タゲリ2羽の上でホバリングする(田中富夫)。
ウズラ ◇11月11日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。
タゲリ ◇10月30日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。◇11月23日、浦和市秋ヶ瀬B地区で9羽(佐藤晶人)。◇11月30日、浦和市南部領辻の惣持院下の田圃で5羽(大武昭雄)。◇12月19日、浦和市秋ヶ瀬Aサイド地区で61羽(佐藤晶人)。
ユリカモメ ◇12月3日、川本町の明戸堰上流で18羽(渡辺 敦)。
シラコバト ◇11月13日、浦和市の芝川の葎野新橋付近で10羽(大武昭雄)。
タヒバリ ◇11月11日、桶川市川田谷で2羽(北川慎一)。
イソヒヨドリ ◇11月27日午前6時、大宮駅新幹線ホームで♀1羽(藤野富代)。
ツグミ ◇11月21日、桶川市川田谷で2羽(北川慎一)。◇11月21日、浦和市の見沼田圃で1羽(大武昭雄)。
ヒガラ ◇12月3日、熊谷市大麻生野鳥の森東部で2羽(渡辺 敦)。
ホオアカ ◇11月6日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。

【2月の見どころ】

昨年暮は、県内にコウノトリとクロツラヘラサギという、いわば、冬鳥のVIPがやってきて、大変にぎやかに暮れましたが、暖冬傾向とは言え、一年で最も寒いこの時期、どんな野鳥と会えるでしょうか。

山野の鳥で会いたい、あこがれの鳥といえ、ば、「青い鳥」ルリビタキをあげられる方も多いでしょう。日本で繁殖していますので、一年中おりますが、夏の間は、高い山でしか、その姿を見ることはできません。ルリビタキの青さは、オオルリやコルリのどちらかというと紺に近い青と違い、もっと鮮やかな青です。カワセミの背のコバルトブルーに近いといったら言いすぎでしょうか。私は、数年前に見た、白い雪の上に、ベニマシコやホオジロの赤と茶の点在する中の青一点、あのルリビタキの「ハッ」とするほどの青さを今でも鮮やかに思い出すことができます。

ただ関東では、成鳥の雄に出会う機会は少ないらしく、雌や若い雄が多いようです。ルリビタキは、雑木林に行けば見られますが、数は少ないので、会えるかどうかは運次第です。同じような場所でビンズイにも会えるでしょう。ビンズイも夏の間、高い山で繁殖し、冬に平地におりてくる鳥ですが、主に地上で見られます。首から胸にかけての黒い点が目立つタヒバリに似た鳥です。ビンズイは、枝に飛び移った時に注目して下さい。なんと枝の上をトコトコ歩くのです。見ていて何となく変な感じがします。そうです。他の樹上性の鳥達は、ゴジュウカラを除けば、そういうふうには歩く鳥は、めったにいないからです。

水辺の鳥をじっくり見たい、ついでにワシタカも見たいという方におすすめは、本庄市



コハクチョウ（12月10日、本庄市
阪東大橋下流、北川慎一撮影）

の阪東大橋下流の利根川です。昨年、一昨年とマガン、コウノトリ、クロツラヘラサギと話題にことかかない場所です。広い河川敷と川に浮ぶ無数のカモやハクチョウと実にすばらしい所です。ただ、双眼鏡だけでは、ちょっと物足りないかもしれません。

その中で、おすすめは、カワアイサです。カワアイサは、数もあまり多くなく、来る場所もだいたい限られていて、県内ではここ以外では、めったに見られません。

この潜水性のカモは、実に腕のいい（くちばしのいい？）漁師で、鳥としては珍しいギザギザのつuitたくちばしを利用して、驚くほど大きな魚を捕えることがあります。その時は、もう大変で、仲間同志で追いかかけ合い、奪い合いと大騒ぎです。最終的にくわえたやつが、半分ほど飲みこむと争いは終わります。

こんなもの食べられるのかと思って見ていると思いきり口を開けて、自分の首の太き以上ある魚を頭から、除々に何回かにわけて丸飲みにしてしまいます。これをドタバタやりながらやるのですから、よく、ひっかかないものだと感心します。見ている方は、ただ、驚くやら、あきれやるやらで、あいた口がふさがりません。単に見ているだけでも、きれいな鳥ですから、まだの方は、ぜひどうぞ。（藤原寛治）

表紙の写真

シメ（アトリ科）

昨年3月、名古屋市内某有名動物園で撮影に成功したシメ。ちょうど土の上に落ちていた草の種子をついばんでいる場面で、くちばしに泥が少し。
シメの顔はごついと誰かが言っていたが、

確かにそうだ。ギロツとした目で睨まれるとちょっと、おそぎゃあだよ。

（「おそぎゃあ」とは「こわい」の名古屋弁です。）

（写真と文・渡辺 敦）



厳しい寒さと春の予感の同居する不思議な2月。水上に、雑木林に、田園に闊歩する真冬のスター達。一方、耳をすませば既に小鳥達の歌声が。そんな2月を味わいに探鳥会へ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、(もしあれば) 双眼鏡などです。

参加費は、一般=100円、会員及び中学生以下=50円。予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

滑川町・森林公園探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前10時 森林公園南口

交通：東武東上線川越9:10発→森林公園9:35着、東武バス乗換え、森林公園南口行き9:42発→南口9:52着 / 東武東上線寄居8:52発→森林公園9:23着、以下同上

解散：午後1時ごろ

費用：入園料350円が必要

担当：諏訪、渡辺

見どころ：あなたのお好きなカモを探して下さい。山田大沼等の沼に浮かぶ数千羽のカモの中には、オシドリやヨシガモ等の人気者の姿が見られます。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前8時20分 高崎線上尾駅西口
または午前9時 丸山公園北駐車場
(上尾駅の場合、その後バス利用)

交通：高崎線大宮8:07発→上尾8:17着
 / 高崎線熊谷7:43発→上尾8:14着

解散：午後1時ごろ

担当：乗田、赤瀬

見どころ：楽しみ一杯の新しい探鳥コース。公園内や荒川べりを歩いていると、色々な冬鳥達や沢山の春告鳥が、ホーホケキョと歓迎してくれます。それにとっておきの目玉は……来てのお楽しみ。

蓮田市・黒沼探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前8:45分 東北本線蓮田駅東口
(その後現地までバス利用)

交通：東北本線大宮8:12発→蓮田8:21着
解散：午後1時ごろ

担当：中島、松井、木村、浅田、小林

見どころ：冬景色の田園を散策しながら、スター達の登場を待ちましょう。眉の黄色い小鳥や頬の赤い小鳥も可能性あり。

所沢市・狭山湖探鳥会

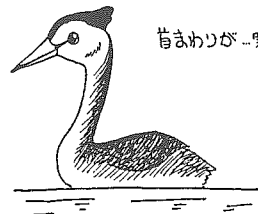
期日：2月11日(祝)

集合：午前9時 西武狭山線西武球場前駅南
交通：武蔵野線南浦和8:01発→新秋津8:23着、徒歩7分、西武池袋線秋津8:39発→西所沢8:46着、西武狭山線乗換え8:52発→西武球場前8:58着

解散：午後2時ごろ

担当：海老原、藤原、小荷田、登坂、金井

見どころ：おしゃれな水鳥さん達。白と黒の粋な衣装のカンムリカイツブリ、ミコアイサ、ホオジロガモさんが楽しめます。空ではオオタカさんもおめかしを。



昔まわりが...集ろう。

かんむりカイツブリ

伊奈町・小室無線山探鳥会

期日：2月11日（日）
集合：午前9時 ニューシャトル志久駅前
交通：ニューシャトル大宮8：30発に乗車
解散：午後1時ごろ
担当：乗田、森本、赤瀬、木村、楠見
見どころ：賑やかな小鳥の群れと一緒に林の
小道を歩きましょう。一際可愛い姿が
混じっていますが、あれは誰かな。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：2月21日（日）
集合：午前8：15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）
解散：午後1時ごろ
共催：浦和市立郷土博物館（参加費無料）
担当：楠見、福井、渡辺（周）、乗田、手塚
見どころ：見沼の冬鳥の最盛期。冬鳥の種類
も豊富、意外な鳥も期待できる2月で
す。鳥影を丁寧に見て歩きましょう。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：2月21日（日）
集合：午前9時 本庄駅北口
（その後現地までバス利用）
交通：高崎線大宮7：44発→熊谷8：25発→
本庄8：49着
解散：午後1時ごろ
共催：群馬県支部
担当：北川、萩原、林、正田、新井、小淵
見どころ：真冬の夢、河原のオールスター。
水面を走るのは少し珍しいカモやコハ
クチョウ。上空には猛禽。そして夢の
スーパースターは……果たして。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月27日（土） 午後1時～3時ごろ
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階
第1講座室（浦和駅西口から県庁通り
西進、中山道を左折し約600m右側）
案内：土曜の午後の楽しい過ごし方の一つ、
それは……『しらこぼと』の袋づめ？!

野鳥写真クラブ定例会

とき：2月27日（土） 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめと同じ
案内：今月はどんな名（？）作が拝めるかな。

大宮市・高木地区探鳥会

期日：2月28日（日）
集合：午前8時45分 大宮駅西口階段下
または午前9時30分 東武バス停高木
前（大宮駅の場合その後バス利用）
解散：午後1時ごろ
担当：森本、乗田、大橋
見どころ：閑かな田園、のんびり探鳥。雑木



林、湿田、休耕田等な
つかしい風景の広がる
中を散策すれば、タゲ
リや冬の小鳥が普段着
で歓迎を。行い次第で
ケリや鷹類も。

新座市・平林寺探鳥会

期日：2月28日（日）
集合：午前9時 東武東上線志木駅南口
（その後現地までバス利用）
交通：東武東上線朝霞台8：53発→志木8：
55着 / 東武東上線川越8：43発→志
木8：59着
解散：午後1時ごろ
費用：参加費は無料です。但し、入山料大人
200円、中学生以下100円が必要。
担当：福井、藤原、黒田、長谷
見どころ：武蔵野の面影を残す雑木林の道を
辿れば、キクイタダキ、アオゲラ、ル
リビタキ等が散策の友となるでしょう。

3月6日（日）長野県・軽井沢探鳥会
3月12日（土）茨城県・菅生沼探鳥会
3月13日（日）熊谷市・大麻生探鳥会
浦和市・三室地区探鳥会
3月20日（日）浦和市・さぎ山公園探鳥会
3月21日（祝）秩父市・羊山公園探鳥会
4月22日（金）～24日（日）
三宅島探鳥会（詳細はp.11）
（カット＝鈴木加代子、鈴木高士）

行事報告

11月23日(月、祝) 浦和市 さぎ山記念公園

人 34人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コガモ タカSP タゲリ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)いつものノスリはどこに行ったのでしょうか。まだ来ていないのでしょうか。ちょっと残念。でも、そのほかはみんなそろって、鮮やかに色づいた木々の間を飛びかうシジュウカラ、ジョウビタキ、藪から出てきたウグイスが忙しく枝渡り、ホオジロとカシラダカが並んでくれたり、カワラヒワがポーズをとったり、たっぷりサービス。みんな今日もありがとう。



さぎ山記念公園探鳥会にて(撮影・福井恒人)

11月28日(土)『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、佐藤晶人、佐藤ミツ、森 静子、山部直喜、吉本富美子、渡辺 敦、渡辺孝章(10人)。冷たい雨がしょぼしょぼ降って、最初はたったの2人、心細かったなあ。雪が降ってもヤリが降っても袋づめはあります。どうぞお集まりください。

11月28日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 10人 作品発表した人 3人

11月29日(日) 坂戸市 高麗川

人 45人 天気 曇 鳥 カイツブリ コサギ マガモ カルガモ ホオジロガモ トビ チョウゲンボウ コジュケイ キジイカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種)木々は紅葉の見頃。これで目玉のヤマセミが出れば言うことなし。開始前の下見ではじっくりと見られ、リーダーにもにんまり。ところが本番では現われてくれなかったのです。でも、あんな小さな川に県内では珍しいホオジロガモ♀が1羽飛来したし、ここでは当り前のカワセミはむろん全員見られた。



カワウ(撮影・渡辺孝章)

12月6日(日) 北川辺郡 渡良瀬遊水池

人 7人(栃木県支部1人) 天気 雪 鳥 カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナ

ガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンク
ロハジロ ミコアイサ カワアイサ チュウ
ヒ シロチドリ ユリカモメ キジバト ヒ
バリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒ
バリ ヒヨドリ ツグミ ホオジロ カシラ
ダカ オオジュリン カワラヒワ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス

(34種) 明け方からの雪で参加者はいないだ
ろうと思っていたら、電車から6人も降りて
きてリーダーもびっくり。2台の車で遊水池
を1周しながら探鳥。カンムリカイツブリ、
ハジロカイツブリ、ミコアイサなど以前は飛
来しなかった鳥が見られた。雪の中、こじん
まりした探鳥会もいいものでした。

12月19日(土)『しらこぼと』袋づめの会
海老原教子、海老原美夫、金子真理、草間和
子、福井 亘、渡辺孝章の6人。印刷などの
都合で、この日は『しらこぼと』はまだ。そ
れでも封筒へのラベル貼り、名簿との照合作
業から、支部ワッペンの袋づめ作業、パンフ
レットを折る作業などいろいろ。こういうと
きにがんばってくれる人は正に二重丸。

12月26日(土)の実際に『しらこぼと』を

封筒に入れる作業は、浅沼源太郎、岩波勇一、
榎本秀和、海老原教子、草間和子、福井 亘、
藤野富代、吉田二三子、吉本富美子の9人。
事務局長はクロツラヘラサギの撮影に出かけ
て不在。あんなのいなくてもいいさと、狭い
事務局は満員。御苦労さまでした。

12月20日(日)浦和市 三室地区

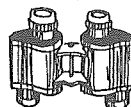
人 55人 天気 晴 鳥 チュウサギ
コサギ コガモ オナガガモ コチドリ タ
ゲリ ハマシギ タカブシギ イソシギ タ
シギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバ
リ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュ
ウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オ
ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36
種) すばらしいお天気の下のんびり楽しみな
がら歩く。見沼田圃では珍しくタゲリが現わ
れ、真上を飛行してサービスしてくれたり、
イタチが軽やかな身のこなしを見せてくれた
りで一味違った役者が登場。芝川では冬の名
物ハマシギが忙しく採餌していた。

はみ出し行事あんない



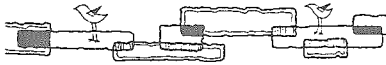
期日：4月22日(金)夜~24日(日)
集合：22日20時 浜松町駅東京寄り改札口
帰路：東京港に24日19時20分到着の予定
費用：約16,000円の予定(宿泊費、往復船賃
含む)
定員：15名(先着順、県支部会員に限る)
申込み：申し込みが必要です。往復葉書に住
所(電話番号を含む)、氏名、年齢、
性別を書いて北川慎一
までお申し込み下さい。

見どころ：海と島と鳥の旅。バードアイラン
ドとしてその名を知られる三宅島で、
県支部初の探鳥会を行ないます。目玉
の第一は伊豆諸島固有のアカコッコに
イイジマムシクイ。そのほかではカラ
スバトやシマセンニュウ、オーストン
ヤマガラ。そしてトケン類やコマドリ
も本土よりも姿が見られる可能性大。
帰りの船では船酔いにもめげずミズナ
ギドリ類、トウゾクカモメ類、アホウ
ドリ等、外洋性の鳥をたっぷり見ると
しましょう。そして知り合いの鳥をいっ
ぺんに増やしたら、基地建設等、自然
保護の問題も考えてみましょう。



はみ出し行事あんない

連絡帳



1987年版埼玉県環境白書

1987年版埼玉県環境白書が発行されました。それによると、「自然植生としての樹林地はごく一部が残るのみとなり、また、二次植生として残されていた多くの平地林や農地が工場用地や住宅地に転用された。農地、林地、都市公園の面積を合計した緑地は、昭和35年から60年までの25年間に62,542 ha減少している。この減少面積は、県土面積の16.5%を占めている。このような著しい変化は、本県の動物相にも大きな影響を及ぼしている。」としており、一方で「緑の必要性についての県民意識をみると、59%の人が『緑は生活に安らぎと落ちつきを与えてくれるから(必要だ)』と答えているが、『後世に残すべき緑は、自分たちで費用負担してでも保護していく』と答えた人は4.5%にすぎない。」とも指摘しています。

野鳥を愛し、自然を大切に思う心を、1人、また1人とつないでいく私たち埼玉県支部の活動は大変重要です。お力添えをお願いします。

第43回全国野鳥保護のつどいに協力

環境庁、(財)日本鳥類保護連盟と埼玉県が主催する全国野鳥保護のつどいが、昭和64年のバードウィークに、本県で開催されます。県自然保護課から県支部に協力依頼があり、役員会で検討した結果、大きな目で見、自然を守る心を育てる活動の一環として協力す

題字『しらこぼと』=山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正清(p5,6,12,表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

ることになりました。具体的なことはまた追ってお知らせします。

ご寄付ありがとうございます

次の方々からご寄付いただきました。
板谷雄二郎5,000円、佐々木奎吾2,000円、
狭山市立中央児童館リーダー3名5,000円、
横山 忠200円 (50音順、敬称略)

会員数は

1月20日現在809人です。

活動報告

- 12月6日 狭山市立中央児童館野鳥観察会の指導にかけたが、降雪のため中止(海老原教子、海老原美夫、福井恒人)。
- 12月13日 普及部会議。総務部会議。役員会議(司会・楠見邦博、全国評議員会議と支部代表者会議の出席者と提出議案について、全国野鳥保護のつどいへの協力について、探鳥会の予定について、その他)。
- 12月15日 県自然保護課と保護のつどいについて打ち合わせ。
- 12月16日 NTT野鳥テレフォンサービスのリーフレット2,000枚持参。
- 12月25日 オオハシギの記事、毎日新聞、読売新聞に掲載。



約30羽のセイタカシギを始め、水鳥の数も種類も極めて豊富な新浜の探鳥会(東京支部)の担当幹事さんが一際誇らしげに見せてくれたオオハシギでした。それが1月7日現在、自宅から自転車でも10分の閑沼で越冬中。それも、縦縞のあるタンギと肉眼で区別できる距離で見られるのです。こうなると嬉しさの一方で、何だか拍子抜け。正直言うと、普通の水鳥を探してまで見るのは、申し訳ないけど○○○くなりました。(鈴木高士)

『しらこぼと』 1988年2月号(第45号) 定価 100円(会費に含まれます)
発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎ 0488(32)4062
〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)